



なによりも「生きる力」に繋がる 自分で考え、自分で行動できる ことの大切さ



子どもにとって遊びは「学び」です。自発性や自主性を尊重し、遊びの中から協調性や思いやりの心、決まりを守る大切さ、整理整頓、創造・想像力を育み、安全への注意力などを学びます。また、友だちと一緒に遊ぶ楽しさや仲間意識、思い通りにならない葛藤、自己主張することと同時にがまんしなくてはならないことなど、人間関係における課題も遊びの中で学ぶことができます。

保育園の教育的役割の中で、しばしば「教室的教育」が評価されがちですが、幼児期の子どもにとって「好きなことを見つけ出し、それに熱中する」ことの重要性はあまり語られていません。しかし子どもの学力低下の大きな原因のひとつは「集中力」「熱中力」の低下だといわれています。私たちは、子どもたちが「集中力」「熱中力」を持って大好きなことに夢中になれる環境を提供することに努めています。

年上、年下のお友だちと一緒に 心が育ち合う時間



子ども自身の「見る、感じ取る」力に期待し、心を動かして自ら行動できる環境をつくる

相手のことを想う、想像する気持ちを育む



「一緒に」ってこんなに楽しい!

子どもは、「自分の気持ちをわかってもらえた!」という嬉しい経験の中で、みんなにもそれぞれ「気持ち」があることに気づき、その心に寄り添おうとします。「おいしいね」「うん、おいしいね」「できたよ!」「わあ、すごいね!」…。私たちは、遊びの中で生まれる一人ひとりの言葉にならない声を代弁し、喜びや悲しみも共感して、一緒に笑うこと、喜ぶことの楽しさを伝えていきます。

「ふしぎだな〜」「おもしろい!」 触れて、感じて、五感を育てる

「おっきい葉っぱ発見!」「アリさんたち、みんなどこに行くのかな?」神さまが創られた自然は子どもの興味や探求心を引き出します。五感を通して感じる不思議や感動は、様々なことに目を留める感性の育ちに繋がります。私たちは「本物だからこそ感じられること」にこだわって遊びを展開し、子どもたちが触れるものは、素材の質感が分かるものを用意しています。



子どもが本当に興味を持つのは本物だけ

おもちゃは石・木・布など素材のあたたかさが伝わるものを

column お家の環境づくり

子どもたちは、身の回りへ興味・関心を広げていく中で「目の前にないものをイメージする力」を育んでいきます。大好きなお父さん・お母さんたちの真似をするなど、日常生活の再現をして遊ぶことも。葉っぱをお金に見立ててお屋さんごっこ。積み木を耳にあてて「もしもし〜?」。身近なものから子どもの想像力はどんどん広がります。お家でも、積み木などのシンプルなおもちゃや、葉っぱや小石など自然のものを上手に使って遊んでみましょう。お散歩の時などに、「お空に恐竜がいるよ!」といった雲の見立て遊びをするのも楽しいですよ。

